

いちほまれ

いちほまれ栽培No.6

【生育調査状況と今後の管理情報】

JA福井県

● 間断通水の徹底で単収・品質向上！！

1. JA生育調査状況（7月10日現在）

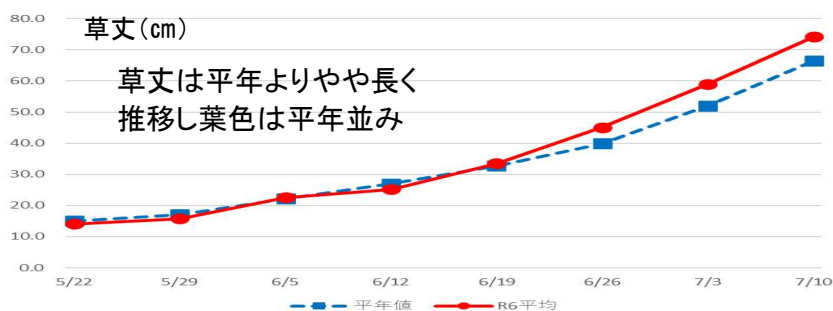
栽培区分	年度	移植日	草丈 cm	茎数 本/㎡	葉令	葉色
移植	R6	5月16日	74.2	535.6	11.8	4.0
	R5	5月15日	66.4	488.4	10.5	4.1

5月中旬植えいちほまれの生育について、そろそろ幼穂形成期を迎える時期となりました。これからは稲が水を必要とする時期になりますので収穫直前まで間断通水による管理徹底をお願いします。

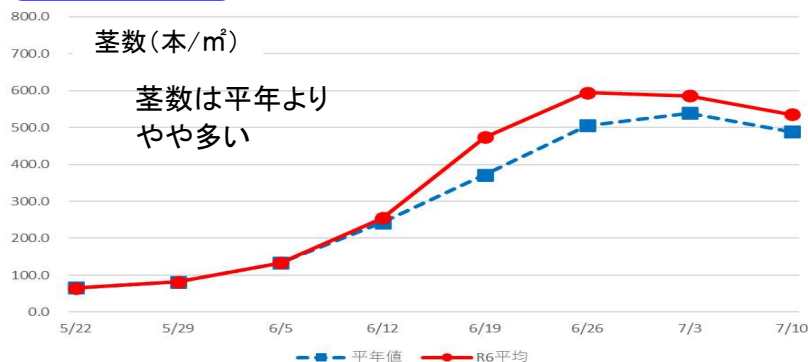
また、6月下旬以降は雨の日が続く、時折猛暑日があることから、いもち病の発生が懸念されます。水回り際には圃場をよく観察し病害虫の発生状況を把握し、被害が見られる場合には速やかに防除を実施するようお願いします。

2. 茎数の推移と今後の管理

草丈(移植)



茎数(移植)



今後の管理について

移植

■ 早い生育のところでは、幼穂1mmを確認しています。
今後は圃場の渇き過ぎに注意し間断通水による管理をお願いします。

■ いもち病予防薬剤を散布していない圃場はで、いもち病の発生に注意が必要です。

病害虫の発生に注意

圃場の見回り、稲を観察して早期に対応しましょう。

■ カメムシ類(畦畔草刈・防除)

■ いもち病・紋枯病(防除)



3. いちほまれ栽培ポイント！

収穫直前までの水管理

- 幼穂形成期以降は水が必要なので間断通水(足跡に水が残る程度)の管理を収穫直前まで実施しましょう。
- 渇きすぎないように3～5日に一回入水しましょう。
- フェーン現象(強い南風)の時は、葉から水分が蒸発し稲体が消耗してしまうので深水の管理をしましょう。

田面がカラカラに乾く
まえに入水しましょう。



田面を乾かさない